

令和3年度第2回京都市高齢者施策推進協議会の報告事項に係る御意見について（照会結果と対応等）

配布させていただいた報告事項1，2に関し，頂戴した御意見と，これを踏まえた対応等は以下のとおりです。

◎ 報告事項1「会長の互選結果，会長職務代理者等の指名及び協議会の運営方法について」

御意見	御意見を踏まえた対応等
<p>【報告事項1に関する御意見】 (佐藤 光信委員 (市民公募委員))</p> <p>○ 協議会の運営方法について，新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅に減少していること，地域ケア会議や高齢サポート等の正常な活動ができていないため，改善策を議論すべきであるから，新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で，書面ではなく本会議を開催すべきである。</p> <p>(三輪 正子委員 (市民公募委員))</p> <p>○ 適切な形で決定していただいたため，特に意見はない。</p>	<p>○ コロナ禍における高齢者施策推進協議会の開催につきましては，市内における感染拡大の状況に加え，多くの委員が，感染すると重症化の恐れが高い，高齢者への医療や介護サービス業務に関わっていることを踏まえ，委員が参集する形での，いわゆる集合会議開催の必要性・緊急性を総合的に勘案し決定してまいりたいと考えております。</p> <p>引き続き，ウィズコロナ・ポストコロナ社会への適切な対応を図りつつ，高齢者施策推進協議会の開催に努めてまいります。</p>

◎ 報告事項2「令和2年度 高齢サポート（地域包括支援センター）の運営状況等について」

御意見	御意見を踏まえた対応等
<p>【報告事項2に関する御意見】</p> <p>第1 <u>令和2年度地域ケア会議実施状況について</u> (佐藤 光信委員 (市民公募委員))</p>	

○ コロナ禍により各地域ケア会議の開催頻度が低下していることは残念である。感染症防止のためのガイドラインを提示して、各地域ケア会議の開催を可能にしてはいかかがか。

(清水 紘 委員 (京都府慢性期医療協会会長))

○ 別紙2 P 5 「地域での支援ネットワークの強化に向けた取組」について、資料のとおり「地域ケア会議」と「分野別の会議」の各種会議が適切に連携することが大切だと考える。令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、個別ケースの地域ケア会議や学区の地域ケア会議の実施回数が減少しているが、必要に応じて開催方法を工夫して実施しているように思われる。

(三輪 正子委員 (市民公募委員))

○ 今回の資料を拝見し、「地域ケア会議」とは、徐々に作り上げていくものであると理解したが、この速度で「効果的な実施に向けた取組を進めていく」ことは難しいのではないかと考える。
地域の支援ネットワークを強化するため、地域ケア会議と分野別ネットワークとの連携がうたわれているが、各区・支所の目標や取組内容に差が生じているように思われる。実施回数も平成29年度が最も多く、会議の形骸化が懸念される。新型コロナウイ

○ コロナ禍における地域ケア会議の開催につきましては、本市から高齢サポートに対し、感染防止対策を徹底すること、地域における感染拡大の状況や会議の必要性・緊急性等を総合的に勘案して開催手法を検討すること、構成員が参集する形での開催が難しい場合はできるだけオンライン開催や書面開催とすること等を伝えており、地域の状況を踏まえつつ、柔軟な形での会議の実施に努めております。

一方、地域ケア会議の構成員である地域の関係団体等の意向等を踏まえつつ開催しており、必ずしも従来と同等の会議開催回数となっておりますが、引き続き、様々な工夫のもと、実効性のある地域ケア会議の開催に努めてまいります。

○ 地域における支援ネットワークを充実していくためには、地域ケア会議と、課題に応じて関連する会議体やネットワークが連動し、地域課題に関する協議や対応を進めていくことが重要と考えており、引き続き、開催方法等について様々な工夫を図ったうえで、地域ケア会議の実施に努めてまいります。

○ 各区役所・支所において開催している地域ケア会議においては、それぞれの地域の関係者との議論等を踏まえつつ、地域の特性や地域課題等に応じた目標設定や取組の検討・実施に取り組んでおります。会議の開催に当たっては、高齢サポートや各区役所・支所の職員等を対象とする研修等を通じて地域ケア会議の積極的な開催への意識付けや内容の充実を図るなど、引き続き、地域ケア会議の充実に向けて取り組んでまいります。

ルスの影響で、令和2年度、令和3年度における実施回数の減少は想定されるが、新型コロナウイルスの終息後はどのようになるか注視してまいりたい。

- P6「地域ケア会議等における各区・支所の地域課題・対応の方向性等（令和2年度）」について、既に実施済みの活動と、今後実施予定の活動を区別せず併記しているため不明確である。実態が分かる形での報告を求める。

好事例として「見守りケア会議」と名付け、会議のテーマを明確にして的確な目的意識のもとに取り組みられた報告がある。このような取組を区・支所間で共有することにより、地域格差が広がることなく、全体として効果的な取組が進むと考える。

第2 令和2年度「一人暮らし高齢者全戸訪問事業」実施状況

(佐藤 光信委員（市民公募委員）)

- ワクチン接種、検温、マスク、アルコール消毒及びソーシャルディスタンス等の感染対策に加え、簡便な抗原検査の適用等のガイドラインを提示して、訪問活動の継続を図るとともに接触継続中の方々の減少に努めてほしいと考える。

(三輪 正子委員（市民公募委員）)

- 担当ケアマネジャーがいる方については、モニタリング等でケアマネジャーが自宅を訪問する機会があり、日常的に見守り体制が確保されていることから原則対象外とし、一方で、担当ケアマネジャーがいない等、「連絡が取りづらい、目の届きにくい方へ手厚く」という効果的な手法が取り入れられたことは大変素晴らしいことである。

- 委員の御指摘を踏まえ、今後、別紙3「地域ケア会議等における各区・支所の地域課題・対応の方向性等」の記載について、実施済みの活動と実施予定の活動が区別できるよう改善します。

また、各区役所・支所における取組の好事例について、高齢サポートや各区役所・支所の職員等を対象とする研修等を通じて共有することなどにより、市全体として効果的な取組が進むよう、努めてまいります。

- 本市では、コロナ禍においても、個別訪問業務等における感染防止対策の留意点を示したうえで、高齢サポートによる訪問活動の継続に努めているところです。引き続き、感染拡大の状況を踏まえつつ、多くの方との面談等を通じて、支援の必要な方を着実に把握し、適切な支援につなげられるよう取り組んでまいります。

- 一人暮らし高齢者世帯数が今後も増加していく中、支援を要する方を効果的・効率的に把握し、必要な支援につなげていくことが重要と考えており、引き続き、高齢サポートによる訪問活動の着実な実施に取り組んでまいります。

○ 避難行動要支援者名簿の活用方法も新たに検討しているとのことだが、地域のネットワークを更に有効的なものとするため、平素の情報収集に、民生児童委員、該当地区の交番に勤務する警察官、各町内の防犯・防災委員や町内会長等にも加わっていただく、またはその方々に話を聞くという機会があっても良いのではないかと考える。

○ いただいた御意見を参考に、関係部局や地域の関係機関等と連携を図りながら、引き続き、避難行動要支援者名簿の活用や地域における支援ネットワークの構築に向け、検討を進めてまいります。